



三到図書館 ニュース

2012年4月発行
No.70

J. F. Oberlin University Library

- ◇巻頭メッセージ
- ◇教員からのメッセージ
- ◇図書館を活用しよう
- ◇図書館読書運動プロジェクト報告
- ◇図書館からのお知らせ

📖 巻頭メッセージ

図書館を活用しよう。図書館で勉強しよう。

桜美林大学 学長 三 谷 高 康

図書館って初心者にはなかなか馴染めないところですね。書庫の本は図書館の流儀で並べられていますし、本の背表紙に貼付されているラベルには見知らぬ番号や記号が記入されています。本と雑誌は別々に保管されていて、町の本屋さんの並べ方でもなく、ましてや自分の書棚とは全く違う方式になっています。自分の書棚には関連性が高いと思う本は隣同士に並べていますが、図書館はとんでもなく離れた位置にある書架に納められていたりするからです。要するに図書館の運営は利用者中心ではなく、図書館側の論理で組み立てられているため、初心者は戸惑うのです。

取り分け大学の図書館は新入学生の皆さんが利用してきた学校の図書室や町の本屋とは全く違った特徴を持っているので、慣れるのにしばらく時間が必要かもしれません。学校の図書室は、教養的な読み物や学習補助になる資料を提供するために設置されたもので、同時に、読書習慣を培い、生徒の教養を高めたいという学校側の狙いもあります。公共図書館は、地域住民へのサービスを目的に整備されていますから、評判のベストセラーも借りることが出来ますし、ファッション雑誌や旅行ガイド本など趣味的な本もコレクションに含まれています。最近「無料貸本業」と揶揄され、著作権者から白い目で見られていますが、要するに住民への資料提供を念頭に運営されていると言ってよいでしょう。

それでは大学の図書館とはどのような特徴を持っているのでしょうか。大学図書館は、一言で言うなら「調べ、書く」を念頭に置いた図書館です。学生のレポートや論文を書くための学習支援や学生・教員の研究支援を使命とする図書館です。「学術情報」が集った学術研究の宝庫です。更に、大学図書館の特徴は、世界の図書館とネットワークで結ばれています。他大学から必要な本を借りることも学術雑誌や研究資料のコピーを手に入れることも簡単に出来ます。自分の所属する大学図書館の限界を越え、世界の英知を参考に研究が出来るようになっていくのです。そうした大学図書館を是非、皆さんに活用してほしいのです。

まず、三到図書館に足を踏み入れて下さい。アクセスの機会が増えると図書館独自のシステムが理解でき、自由に使いこなす楽しみが生まれ、ますます図書館の奥深い素晴らしさが味わえるようになります。その為に、図書館で勉強する習慣をまず身に付けることです。

30年以上も昔になりますが、私は米国の大学で数年間、学ぶ機会がありました。寮生活でしたので、勉強はもっぱら自分が所属する神学大学院の付属図書館で

した。夜の9時の閉館まで、書庫の隅に備えられているキャレル（勉強机）で膨大な量のアサイメントを読み、9時以後は大学の中央図書館で夜中の閉館までテキストと格闘を続けました。そんな勉強生活がしばらく続きましたが、その間、館内を歩き回り、いつしか神学図書館のシステムをどの学生よりも熟知するようになりました。レファレンスルームでは調べる楽しさを経験しました。学術雑誌がそろったフロアでは、世界中の神学研究の論文に出会いました。当時はまだIT時代以前でしたのでインデックスカードを使った検索方法でしたが、毎日書庫をブラウジングするうちに、カード検索の助けを借りず、直接、書庫へ入り必要な本を瞬時に見つけ出すことが出来ました。そして、なによりも図書館スタッフと親密になったことが大きな収穫でした。学位論文の作成に際しては親身になって相談に乗っていただき、研究成果は格段に向上しました。



三到図書館は皆さん方が勉学出来る環境を整えています。アウグスチヌスという五世紀に活躍した有名な神学者がいます。彼の代表作『告白』に自分の恩師であるアンブロシウスの勉強の様子を記した面白い一節があります。「彼は読書をしている時、その目はページを素早く追い、精神はその意味を鋭く探求しているのだが、舌は止まったまま声を出さなかった。」彼は、アンブロシウスの真剣な読書風景に感動したのではなく、黙読している姿に驚いたのです。中世ヨーロッパでは黙読の習慣はまだ普及しておらず、音読が通常の読書法でした。声を出して本を読むのが当たり前だったのです。きっとアウグスチヌスは声が飛び交う騒がしいローマやカルタゴの図書館で資料を漁ったことで

しょう。しかし、アウグスチヌスの昔と違い、三到図書館は学内で最も静かな学習の場を提供しています。ですから、皆さんは勉強に専念でき、古今東西の英知に触れることができます。そして、図書館スタッフが利用方法についてよろこんで相談に乗ってくれます。図書館を十二分に活用し、皆さんの勉学の向上に役立ててほしいと心から願っています。

図書館を十二分に活用し、皆さんの勉学の向上に役立ててほしいと心から願っています。

📌 教員からのメッセージ

「旧図書館」と「桜美林アーカイヴス」について

桜美林大学名誉教授 永瀬 順 弘

私が前図書館長の時代（2007－2010年度）に実現しなかった問題として、大きく二つある。それは、新図書館建設問題と「桜美林アーカイヴス」の設立とである。前者は、十数年に亘る歴代の図書館長が切望しつつも実現させることが出来なかった大問題である。現在の図書館は、今から40年前に設立されたもので、大学設立当初からすれば、二代目ということになる。初代の図書館は、図書館と呼ばれるほどのものではなく、教室をぶち抜いて造ったような、いわば図書室程度のものに過ぎなかったのであるが、現在の図書館は、曲がりなりにも、40年前にあっては、様々な問題を抱えつつも、僅か数千人規模の少人数の大学からすれば、図書館と呼ばれるにふさわしいものであった。

ところが、大学生の数だけでも8,000名を超える大学へと飛躍した昨今にあっては、現在の図書館が最早十分な機能を果たし得ない状況となっていることは、周知の通りである。図書・資料の収容能力は、著しく劣り、約半分の図書・資料が、年間約2,000万円余りの賃借料を払って外部の倉庫に置かれている。また、座席数も少なく、学生が様々な勉強や研究を行う場としても、さらに、コーヒーでも飲みながらコミュニケーションの場としても利用出来るような共有空間の面から見ても、情報化の時代に対応したものではなくなってきている。

図書館は、それぞれの大学のいわば象徴的なもので、大学の質的な尺度の重要なバロメーターであることはいうまでもない。最早、コスト計算からだけからしても、図書館の建設問題は、急務であり、一刻も早く、新図書館が建設され、現在の図書館が、「旧図書館」と呼ばれるようになる日が来ることを理事会諸氏には強く要望したい。このことが一つである。

あと一つの問題は、「桜美林アーカイヴス」の設立問題である。私は、在任中に、度ある毎に、この問題の重要性について触れてきたが、図書館との関係をどうするか、図書館の職員が扱うべき問題なの

かどうかをめぐって、議論は空転してきた。しかし、どこの大学でも図書館と全く無関係な存在であるところはなく、いわば付属施設として設置されているところが多いように私には思われる。



私が、この問題が新図書館建設と合わせて急務だと思われる理由は、本学における、歴史・資料の著しい散逸の問題があるためである。どこの大学でも、質量は問わずとも、学園史や大学史を持たないところは稀であろうが、本学では未だこの問題に着手されていないのが現状である。最近、私も編集委員の一人として加わって作成した『経済学部創立40周年記念歴史・資料集』にあっても、資料の散逸が著しく、膨大なエネルギーを費やすことになってしまったが、今後、日一日と経つにつれ、この傾向はますます避けることが出来なくなってしまうものと思われる。

大学についてみれば、今日まで、経済学部および文学部・英語英米文学科についての、それぞれの歴史や概要が作成されているものの、歴史と伝統のある文学部・中国語中国文学科や、国際学部に到っては、その声すらも聞こえて来ない惨憺たる状況である。このままで進むと、資料の散逸どころか、かつて、そういう学科や学部が存在したことすらも、永久に闇のかなたに消えてしまうのではないかと、危惧される場所である。

大学当局は、この点でも、強力なリーダーシップを発揮し、歴史を後世に残す本格的な作業に着手していただきたい、ということ、また、図書館職員にあっても、目的意識的に、資料の収集・整備に取り組むか、側面からのバックアップを期待したいところである。

📌 教員からのメッセージ

キャリア能力の涵養に図書館とキャンパス外での活動を

桜美林大学名誉教授 岩井清治

入学おめでとうございます。これからの大学生活、精一杯多くの目標を立てて頑張ってください。短期と長期の目標が必要です。学習や研究、体力作りも、趣味の領域のものでさえ、大学時代に考え、作り上げたさまざまな方法は、そのまま職業人生に入っても立派に通用します。そのまま有効です。いろいろな方法を模索して、その中から一生使える自分なりの方法を繰り返しながら編み出してください。それが目には見えない、モノでは測れない貴重な財産になると思います。

ところで、最近の大学生を含む若年者をめぐる雇用情勢はけっして楽観できるものではありません。特に、いわゆるバブル経済終息後の20年間の雇用環境は若者にとっても大変な時代が続いています。かつては、大学や学校の卒業とともに就職した企業で、職業技術、ノウハウを学び、多くはそのまま職業人生が約束される、職業社会に順応できる仕組み、方法が多かったと思います。大学教育はしたがってその分、企業内教育では扱われることの少ない、主としてアカデミックな教養教育機能を担ってきました。いわゆる職業技術や職業ノウハウとは別の、より幅の広いより深いものの考え方、哲学・思想、文化の領域まで、企業での仕事能力にはすぐには結びつかない、しかし人生を築く上で極めて重視されなければならない人格・人間教育、教養教育を提供して、幅の広い人間性の涵養に貢献してきたと思います。したがって、企業はそうした幅の広い、味のある性格の持ち主、磨けば光る人材を自社の企業内での職業人として育て上げ、企業成長の支柱としてきたことができます。海外ではあまり例がない仕組みと高く評価された、大学教育と企業内教育との見事な棲み分け、連携でした。

この棲み分けは、基本的には現在でも続いていることはない、と思います。しかし、現在の大きな趨勢は、職業人生を就職した企業とともに送ることができる正社員として雇用される比率がますます少なくなり、非正規として雇用される形態つまり職業人教育を正社員のように十分受けられない職層の人たちが一層増加している、ということです。また、たとえ正社員の立場を手に入れたとしても、雇用環境の変化で、企業内教育がどのように与えられるかは極めて流動的となっていることに注意してほしいと

思います。つまり、大学が教育機関として求められている現在の社会的な要請は、これまでの教養教育に加えて、本来であれば正社員に提供されていた企業内職業技術、職業ノウハウの習得部分を今度は大学が担う、ということになります。

大学がこれまでの企業のようにその部分を担うことは難しいでしょうが、しかし大学生活を通して、そうした能力は積極的にキャンパス外での活動等に求められると思います。当然ながらキャンパス内での学習がメインであることは間違いありません。海外留学、フィールドワーク、ボランティア、企業研修等々、本学には有り余る選択肢が用意されています。クラブ活動やサークル活動も貴重です。また、アルバイトも活用してください。アルバイトの経験を口頭報告する学習訓練、プレゼンテーションに活用し、さらにアルバイト経験から生じた疑問を生かして新しい知識の開拓に挑んでください。外国語能力の訓練も、会話表現から強くなることをお勧めします。会話ができるためには使われる頻度の高い文章が暗誦できていなければなりません。暗誦した文章が増えることによって外国語文献の読解力も速くなります。1頁読むのに1時間もかかっているのは、250頁の本は読めません。使われる頻度の高い文章をいくつか暗誦しているかで外国語能力は格段に進みます。また、授業に関係なくとも、図書館をぜひ自主的にレポートや論文の執筆のために利用してください。卒業論文は、長期間一つの目的に向かって勉強しなければなりません。そこでは必ず勉強の段取りが求められます。その段取りの力こそ、就職してすぐに求められる重要なキャリア能力です。教養教育の難しさは、どうしても知識習得型になりがちなこと。知識の豊富さは大切ですが、教養とは「振る舞いとして表現できる力」と言われています。習得した知識を口頭でも文章でも表現できるキャリア能力に仕上げてください。

ご奮闘をお祈りしています。

(前キャリア開発センター長)



図書館を活用しよう！

■ 辞書で調べてみる・・・「学生」とは？「大学」とは？

一般的に大学で学ぶ人を「学生」、高校までを「生徒」と言います。みなさんは大学で学んでいるから「学生」なのですが、では「学生」とはどんな人でしょうか。「学生」について説明できますか？ そんなときは辞書を引きましょう。「学業を修めるもの。特に、大学で学ぶもの」（『広辞苑』）、「学校で勉強する人。特に、大学生をいう」（『大辞林』）、「大学などに在籍して、教育を受ける人」（『新明解国語辞典』）などがあります。詳しく調べるときは百科事典がオススメです。「学校ないしは教育機関で学ぶ者を、すべて総称して学生とよぶ場合もあるが、わが国では、学校教育法および各学校の設置基準等によって、高等専門学校、短期大学、大学および大学院などの高等教育機関で学ぶ者を学生と称する。高等学校以下の学校や専修学校などの生徒、児童、幼児の呼称と区別される（後略）」（『日本大百科全書』）…どうやら「学生」とは「大学で学ぶ（学問をする）人」だと言えそうですね。図書館には何かを調べるための本（辞書・事典類。これを参考図書といいます）があります。カバンに入る電子辞書も便利ですが、ある言葉や事柄について、図書館の辞書・事典、オンライン百科事典『JapanKnowledge』など複数のツールを使って、じっくりと調べてみることをオススメします。最後に、「学生」であるみなさんが学んでいる「大学」って、どんなところなのでしょう？ユニークな語彙で知られる『新明解国語辞典』によれば、「大学」とは「社会の第一線に立つべき人を養成する学校・高校の上」とあります。ここから先はみなさんが図書館で調べてみてください。

（図書館メディアセンター課長 佐々木 俊介）



人物事典、心理学事典など、様々な辞書・事典があります

■ 雑誌を利用しよう・・・「雑誌」って、そもそも何だろう？

「図書館」というと、学生のみなさんが最初に思い浮かべるのは、おそらく本（図書）でしょう。でも、図書館には、本以外に雑誌や新聞、DVDやビデオなどもあります。では、「雑誌」といったときには、みなさんは何を思い浮かべるでしょうか？多くの人が思い浮かべるのは、書店の店頭に並んでいる色鮮やかなファッション誌や、スポーツ、旅行などの雑誌ではないでしょうか？桜美林大学の図書館には、スポーツや映画、音楽、旅行などの雑誌もありますが、それ以外に、一般の書店では見かけないような雑誌がたくさんあります。研究論文の掲載されている学会誌（これについては、後で説明します）、様々な省庁や企業が発行している広報誌のようなものもあります。

それでは、どんなものをそもそも「雑誌」と呼ぶのでしょうか？実は、雑誌とは「定期的に発行される出版物」のことなのです。もう少し補足をする、終わりを予定せずに発行が続くもの（本のように1回発行されたらそれで完結するわけではない）ということなのです。通常は、あるタイトルのもとで、号数や何年何月号といったことが記載されたものが、続いて発行されていきます。それゆえに、毎週発行される芸能関係の週刊誌も、毎月発行されるファッション誌も、書店ではなかなか目にする事のない省庁や企業が発行する広報誌も、1年に1回の発行でも毎年発行が続いている学会の雑誌や大学発行の紀要というものも、広い意味では同じ「雑誌」なのです。

2年生の後半～3年生くらいになると、ゼミや専門科目の先生から、「雑誌論文を読んで、レポートやゼミ論を書くように」と言われることがあります。そのときに「雑誌論文って何？」と疑問に思う人も多いのではないかと思います。そんなときのために、先の説明を知っておいてもらえればと思います。先生方がおっしゃる「雑誌論文」というものは、たいていの場合は、学会発行の雑誌や大学発行の紀要などに掲載されている研究論文のことを意味しています。「それをどうやって探したら良いか？」については、Webページで簡単に探せるツールがたくさんありますので、ご安心を！どんな雑誌が図書館にあるのかということは、図書館の蔵書検索OPACで、タイトルなどから簡単に探せます。もう一つ、そもそもどんな内容の論文があるのか、ということについては、今までのような内容（タイトル）の論文が発表されたか、それがどの雑誌に載っているのかということ、データベースの『CiNii』、『magazineplus』、『医中誌Web』、『国立国会図書館サーチ』などのデータベースで、簡単に検索することができます。そして、検索した論文の内容をそのままPDFファイルで読めるような便利なものもあります。

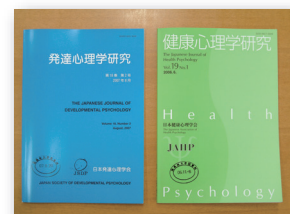
ということで、雑誌は、みなさんの趣味や好奇心を満たしてくれるだけでなく、レポートやゼミ論・卒論にも役立ちますので、ぜひ利用してくださいね。もし、雑誌についてわからないことがあったら、カウンターでおたずねください。

（担当係長 三上 彰）



←雑誌コーナーには、様々な雑誌があります

このような学術的な雑誌（学会誌）もあります→



■ レファレンスカウンターを利用しよう！

三到図書館（本館）3階には2つのカウンターがあります。1つは入館ゲートを入れて正面にある「貸出返却カウンター」、そしてもう1つは階段側にある「レファレンスカウンター」です。図書館を利用する方なら前者はご存知かと思いますが、後者のレファレンスカウンターがどんなところかをご存知でしょうか？

例えば、「本の探し方がわからない」「どこに資料があるのかわからない」「他の大学にある資料を取り寄せてみたいのだけど、方法がわからない」「データベースの操作方法がわからない」など、こういった図書館に関する様々な事柄や、みなさんの調査・研究・学習の相談・質問に応じて、図書館員が資料や情報の提供のお手伝いをする場所が「レファレンスカウンター」です。特に最近では、蔵書検索や新聞・論文検索がパソコンでできるようになって便利になった反面、うまく使いこなせず、思うように目的のものにたどり着けない人が少なくありません。せっかく便利に使えるのに、それが活用できないのはもったいないですよね？レファレンスカウンター、図書館員を利用して、限られた時間の中で効率よく情報を入手し、時間を有効活用してください。相談、質問の内容はどんな些細なことでも結構です。「困ったな」ということがありましたら、お気軽にレファレンスカウンターまでお越しください。そして図書館員にどんどん相談、質問してください。悩んでいたことがすんなりと片付き、研究や学習がスムーズに進むかもしれませんよ。ちなみに、よくご質問いただくことですが、レファレンスカウンターでは図書館資料・PCの貸出返却を行っていません。もう1つのカウンター、「貸出返却カウンター」へどうぞ。

（職員 鬼沢 恵子）



レファレンスカウンター

■ データベース検索のキホン

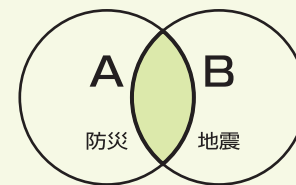
図書館には、インターネットで100年以上前の新聞から今日の新聞まで読めてしまう新聞のデータベース『聞蔵Ⅱビジュアル』（朝日新聞）や『日経テレコン21』（日経新聞）、雑誌の記事や論文の情報がわかる『magazineplus』や『CiNii』などのデータベースがあります。データベースはたくさんの情報を集めていて、キーワードで検索することなどによって、必要な情報を簡単に引き出すことのできるものです。

学生のみなさんが、授業の課題やゼミ論・卒論などで、あるテーマについて必要な情報や文献を集めようとしたときに、それらを的確に効率的に探せるように、ここでは検索のしくみを紹介します。

情報や文献を探す場合、まず、テーマに沿った適切なキーワードを考える必要があります。次に、それらのキーワードの関係性を考えながら、各々のデータベースの検索方法に従って検索します。検索方法はどのデータベースも基本的には同じですが、絞り込み検索・掛け合わせ検索などについて、紹介します。一般的には、「演算子」と呼ばれるもの（AND、OR、NOTなど）を用います。

AND 検索

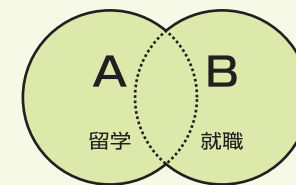
「A AND B」はAとBの両方が含まれているデータのみを検索します。多くのデータベースでは、語と語の間にスペースを入れることでもAND検索ができます。「&」「*」などの記号も使われます。



例) 「防災 AND 地震」
防災と地震の両方の語を含むデータのみ抽出されます。

OR 検索

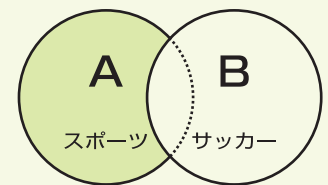
「A OR B」はAとBのどちらかが含まれているデータをすべて検索します。「OR」のほか、「+」「:」などの記号を用います。



例) 「留学 OR 就職」
留学と就職のいずれかの語を含むデータがすべて抽出されます。

NOT 検索

「A NOT B」はAのうちBを含まないものを検索します。「NOT」のほか、「-」や「/」などの記号を用います。



例) 「スポーツ NOT サッカー」
スポーツのうち、サッカーを含まない（サッカー以外の）データが抽出されます。

これらの検索のしくみを知っておくと、必要な情報や文献に早くたどりつけるようになりますので、ぜひ覚えておいてください。

（主任 矢部 知美）

図書館読書運動プロジェクト2011年度活動記録

図書館メディアセンター 課長 佐々木 俊 介

2006年度から始まった図書館読書運動プロジェクト（以下、読プロ）は2011年度も様々な活動を行ってきました。まず最初は何と言ってもあの3月11日の大震災です。大震災の前から、読プロ学生委員たちは、4月からの新たな活動として、大学生協店舗の書籍コーナーに「読プロコーナー」を設置する計画をしていました。それと同時に、生協学生委員会が主催する新入生歓迎イベントにも参加し、読プロの宣伝と新メンバーの獲得に向けて張り切っていたところでした。しかし3月11日を境にすべての計画が白紙となってしまいました。母体であるところの大学が大きなダメージを受け、卒業式・入学式を始めその他各イベントの中止が相次ぎました。更には新学期の開始も1ヶ月遅くなってしまい活動もままならないという事態に陥ってしまいました。

4月には、法政大学、早稲田大学、横浜国立大学など、関東地方の大学で読書に関する活動を行っている学生団体の集まりであるリーダーズネットワークに参加し、対外活動も始まりました。学内だけで終わってしまう活動も多いなか、積極的に学外に出て他大学の学生たちとの交流を深めることには、大きな意義があると思います。また、生協店舗の書籍売場に読プロコーナーを設置、学生の視点で選んだ本を置いて、更なる読プロの存在アピールを開始しました。

5月になるといよいよ大学も新学期が始まりました。1ヶ月遅れの異常な新年度でしたが、いざ始めてみるといつものような学生たちの賑やかな声が響くキャンパスに戻り、私たちも胸をなでおろしました。5月～6月は、読プロ学生委員会では積極的に読書会を行い、太宰治『人間失格』、本多孝好『正義のミカタ』、有川浩『阪急電車』の読書会を行っ

ています。それから図書館の読プロコーナーに地震・津波・原発を知るための「災害本特集」を展開しました。高嶋哲夫著『巨大地震の日：命を守る本当のこと』（集英社新書）、河田恵昭著『津波災害：減災社会を築く』（岩波新書）、鎌田慧著『原発列島を行く』（集英社新書）など、学生たちが自主的に読んで選んだ本が中心となっています。まだ3.11の記憶も覚めやらぬ時期でもあり、学生を中心に貸し出されていました。これで2011年は図書館と生協店舗両方に読プロコーナーが設置され、幅広く学内アピールを開始する年となりました。

7月には『祈望～今だからこそ読んでほしい一冊』（『三到図書館ニュース』第69号に掲載）というテーマで教職員のみなさんから広く書籍を推薦していただき、図書館にも推薦本を設置して貸出を開始しました。これは、読プロ学生メンバーみんなが誰かの力になりたいという「想い」を胸に抱いたことから始まった企画です。震災で被害を受けた人々だけでなく、今後も様々な苦難に立ち向かっていかなければならない学生たちに「読書を通じて何かできることはないか」と考えて企画されました。読プロ学生委員たちは、賛同してくださる先生方の授業でアピールするなど積極的に活動を行い、最終的に37冊の推薦本が集まりました。



祈望の本コーナー

8月の夏休みはそれぞれが読書を楽しんだことと思います。それとは別に『第1回桜美林ビブリオバトル』というミニイベントが開催されました。ビブリオバトルというのは、参加者がそれぞれ1冊の本を持ち寄り、制限時間5分の間にその本がどれだけ面白いか、いかに素晴らしいかというプレゼンをします。全員のプレゼンが終了したら、こんどは全員でいちばん読みたくなったのはどの本かを決め、それをチャンプ本として認定するという知的ゲーム、正式名称が『知的書評合戦ビブリオバトル』と言われる所以です。このイベントには読プロ学生委員だけでなく、生協学生委員会の読書好きメンバーも参加して、暑い夏に熱いバトルが繰り広げられました。

長い夏休みが終わって読書の秋が始まりました。いよいよ読プロ活動の集大成、読書マラソン・桜美林コメント大賞表彰式イベントへのカウントダウンが開始されました。そして今年には作家の方をゲストに呼んで、表彰式の後にトークイベントを開催するという企画が持ち上がりました。現在の読プロ学生委員はみんな経験したことがないイベントです。学生委員たちは、最初の頃は臆病が先に立って、やっぱりイベントを止めようかという気になったこともあったようですが、だんだん形になって活動も活発になってきました。ゲストの人選については、全国大学生生活協同組合連合会が発行する季刊『読書のいずみ』編集部にご協力いただき、なんと2011年ナンバーワンとの声も高い近未来SF冒険小説『ジェノサイド』の著者、高野和明さんを桜美林にお招きすることが決まりました。



司会進行を務める学生たち



高野和明さんと学生たち

イベントに向けてあまり時間的な余裕がなく、コメント大賞の選考、昨年から設置されたポップ大賞、そして留学生部門の選考、集客へのアピールと広報活動、角川書店編集部との事前交渉と、学生たちは目まぐるしい日々を送り、12月1日イベント当日を迎えました。

まず最初に桜美林コメント大賞各賞の授賞式を行い、続いて高野和明さんをお迎えしてのト



インタビューする学生たち

ークイベントが始まりました。『ジェノサイド』のテーマ、アフリカでの内戦や虐殺、貧困、人類の未来などについて、作者の高野さんに直接質問していく形式で進行し、会場から何人も質問の手が挙がりました。高野さんも学生の質問に対して真剣に回答してくださり、時折笑いも起きる楽しい、そして素晴らしいイベントになりました。

今年の読プロ活動は、日本をゆるがした東日本大震災という大きな出来事からスタートすることになってしまいましたが、学生委員たちはそれに負けることなく、『祈望～今だからこそ読んでほしい一冊』の企画、教職員への積極的なアプローチ、他大学との交流という対外活動、大手出版社との交渉（といったら大げさですが）、コメント大賞表彰式&高野和明さんトークイベントの成功と、終わってみれば頼もしい限りでした。2012年度も新たな委員を獲得して仲間を増やし「桜美林を読書会で埋め尽くせ!」という野望実現に向けて邁進します。新入生のみなさんも、読プロ委員として活躍してみませんか？

図書館からのお知らせ



■ 文庫・新書コーナーに新潮文庫を追加しました

「読みやすい文庫本がありませんか」という学生のみなさんからの要望を受けて、2011年11月より、5Fの文庫・新書コーナーに、新潮文庫（約570冊）を追加しました。もともと図書館にはハードカバーの小説もありますが、新潮文庫は読みやすい内容が多く、軽くて持ち運びも便利なため、貸出回数も多くなっています。新潮文庫以外にも、岩波文庫、講談社現代新書など、手軽に読める内容のものが、文庫・新書コーナーには多数あります。通学、休憩のおともにどうぞ。



よく読まれた新潮文庫

新潮文庫のうち、貸出回数の多い本をいくつかご紹介します。
（対象期間：2011年11月上旬～2012年2月下旬）

順位	タイトル	著者名	内容	請求記号	貸出回数
1	エンキョリレンアイ	小手鞠るい	十三年前の春、二人は書店で出会い、優しく切ない恋が始まった。	SB こ-40-2	6
2	はつ恋	ツルゲーネフ[著] 神西清[訳]	年上の令嬢に生まれて初めての恋をした少年の深い憂愁が漂う、青春時代の甘美な恋の追憶。	SB ツ-1-3	5
2	六番目の小夜子	恩田陸	その高校には見えざる手によって「サヨコ」が選ばれるというゲームが存在した…	SB お-48-2	5
3	砂漠	伊坂幸太郎	「その気になれば俺たちだって、何かできるんじゃないか」5人の大学生が社会という「砂漠」に巣立つ前のキャンパスライフを描く。	SB い-69-5	4
3	さがしもの	角田光代	「その本を見つけてくれなけりや、死ぬに死ねないよ」病床のおばあちゃんに頼まれた1冊を求め、少女は奔走する。	SB か-38-4	4

■ 休憩コーナーを設置しました



三到図書館（本館）入口付近に休憩コーナーを設置しました。学生のみなさんには、勉強の合間の食事場所や携帯電話の通話場所といった使い方以外に、友だちとの待ち合わせ場所としても利用されているようです。

図書館の利用と合わせて、「待ち合わせは図書館で！」という利用が増えることを願っています。

ちなみにこのコーナーでの、大声での通話・おしゃべり、匂いのきついもの・汁物の飲食は、図書館という場所柄上ご遠慮ください。

● 編集後記 ●

かつて小田急町田駅前バスターミナルの一角に小さな書店があった。当時町田にあった大型書店に比べ、圧倒的に小さい店舗だったが、品揃えはみごとだった。そこに行けば必ず読みたくなる本との邂逅があった。仕入れと陳列の技が確実に顧客のニーズを捉えていた。もう20年以上前のことだ。その今は無き山下書店町田店については、伊藤清彦著『盛岡さわや書店奮戦記』（論創社）に詳しい。町田店の店長を勤めた著者は山下書店を辞した後、盛岡市のさわや書店に移り、同店をベストセラー発信基地（ベストセラーを売る店ではない。生み出す店である）に作り変えた。本と人との邂逅は偶然がすべてではない。すぐれた書店にはすぐれた書店員がいるように、すぐれた図書館にはすぐれた図書館員がいる、と私たちは胸を張れるだろうか。新入生諸君と桜美林大学図書館の邂逅が素晴らしいものになるように、私たち図書館員に課せられた使命は大きい。（S）